

Seishiro Inose
Sculpture Exhibition
60 Years of Pursuing
Human Sculpture

令和6年度飯山市美術館企画展

猪瀬清四朗彫刻展

— 人体彫刻を追究した60年 —



令和6年(2024年)

6/15 土



9/23 月

【開館時間】

9:30-17:00 (入館は16:30
まで)

【休館日】

毎週月曜日 ※ただし、7/15、
8/12、9/16、9/23 は開館し 7/16、
8/13、9/17、9/24は休館

【入館料】

大人 600 (500) 円、小中学生 400
(300) 円

※ () は20名以上の団体料金

※ 障がい者手帳を提示された
方と介添えの方1名は無料

飯山市美術館

〒389-2253 長野県飯山市
大字飯山1436-1
TEL/FAX 0269-62-1501
メールアドレス:



bijyutsukan@city.iiyama.nagano.jp

予感・時の潮目

2012年

H170×W58×D37 cm

石膏

主催 飯山市教育委員会

猪瀬清四朗彫刻展

— 人体彫刻を追究した60年 —



1



2



5



3



4



6

猪瀬清四朗は飯山市静間出身の彫刻家です。猪瀬は長野県飯山北高等学校在学中、当時の美術教師・三井愛之輔（1917-1999）のすすめで彫刻家になることを志し、武蔵野美術大学彫刻科に進学。同大学では、諏訪郡原村出身でフランスに渡りブールデル（1861-1929）に師事した彫刻家・清水多嘉示（1897-1981）の指導を受け、生涯をかけて取り組むことになる人体彫刻の造形表現について学びました。

1960年に大学を卒業した猪瀬は彫刻家として本格的な作家活動を開始します。そして4年後の1964年、第31回国展彫刻部へ初入選を果たし、以後、2023年に亡くなるまでの約60年間に亘って創作と発表の軸を国展に置い

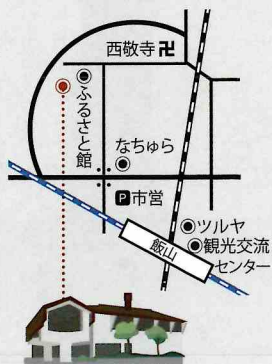
て活動を継続しました。この間に彼が全身全霊を傾けた作品は、そのほとんどが女性を具象的に表現した塑造による人体彫刻です。これら一連の作品は、古典的な人体彫刻という表現に、例えば、現代的な視点でわずかに人体のデフォルメを付加することによって、瑞々しさや生命観を生み出しています。目新しさを追いがちな現代において、反って新鮮さを感じさせるだけでなく、時代に左右されない立体造形としての美しさや完成度の高さを感じることができます。

本企画展では、初期から最晩年までの国展出品作品約50点を展示し、猪瀬が追究した人体彫刻の変遷を辿ります。

- 1 トルソ 1973 95×48×38 cm 石膏
- 2 拭く女(ひと) 1977 98×58×110 cm 石膏
- 3 望 2007 60×66×35 cm 乾漆
- 4 記憶 1993 133×80×60 cm 石膏
- 5 予感・時の刻むもの 2009 166.5×55×35 cm 石膏
- 6 予感・弥生のかたち 2017 151×52×37 cm 石膏

【アクセス】

上信越自動車道豊田飯山ICから約10分
北陸新幹線東京駅からJR飯山駅まで約1時間50分(長野駅から約12分)
JR飯山駅から徒歩約10分



飯山市美術館

〒389-2253 長野県飯山市大字飯山
1436-1 TEL 0269-62-1501

■猪瀬 清四朗 略歴

- 1937 長野県飯山市静間に生まれる。
- 1956 長野県飯山北高等学校を卒業する。
- 1956～57 三井愛之輔に師事しながら飯山北高等学校美術助手を勤める。
- 1960 武蔵野美術大学彫刻科卒業 清水多嘉示（1897-1981）に師事する。
- 1964 第31回国展 彫刻部に出品する。(以後、毎年出品)
- 1969 第43回国展 彫刻部会友に推挙される。
- 1977 第51回国展において会友優作賞を受賞する。会員に推挙される。文化庁現代美術選抜展に招待され出品する。
- 1986 「猪瀬清四朗彫刻展」が飯山市公民館で開催される。
- 2021 JR飯山駅前(飯山市)に「丸山邦雄先生」像が設置される。
- 2023 1月22日、東京の自宅にて逝去する。(享年85歳)